

読んでおもしろかった本の推薦文 2019 現代社会冬課題

『こんなに面白かった！「ニッポンの伝統芸能」—歌舞伎、能、茶の湯、俳句…』

齋藤 孝【著】 PHP文庫 PHP研究所

自分が印象に残っているのは、歌舞伎についての文だ。歌舞伎は日本の伝統芸能の中で最も派手で独特な輝きを放ち、アメリカの20世紀のバンド-KISS-にも劣らないもので日本はバサラ時代からやってきたこと、そこには日本の行儀の良さや品格が残っていることを誇りに思うべきと述べている。

1年男子

『茨木のり子詩集』 茨木 のり子【著】/谷川 俊太郎【選】 岩波文庫 岩波書店

先生に紹介されてこの本を読んだ。茨木のり子の性格も生まれた環境も知らないが、彼女の詩に触れるとくすぐたくなる。女性に対して失礼極まりないが、彼女はきっと「おちゃめなおばちゃん」だろう。私はここまで優しい詩に初めて触れた。

1年女子

『99%の絶望の中に「1%のチャンス」は実る』 岩佐 大輝【著】ダイヤモンド社

「宮城県産イチゴ」みなさんは見たことありますか？その中には東日本大震災を糧にして作られた「みがきいちご」があります。ひとつ千円ほどするものです。震災から立ち直るためにIT企業の社長だった作者はイチゴ農家を立ち上げます。作者の行動力に、人生について気づかされます。

1年女子

『新しい1キログラムの測り方—科学が進めば単位が変わる』 臼田 孝【著】

ブルーバックス 講談社

私たちがよく耳にする言葉、「はかる」。計る、測る、量る…様々な書き方があります。しかし、つい1年ほど前に「量る」の定義が変わりました。これはそんな「量る」について歴史や根本的な定義など様々な観点から著された本です。え？どうせ数式多いでしょう？安心してください。著者が冒頭でも述べていますが、文系の方にも読んでもらえるよう数式は最小限です。是非手に取ってこの面白さを感じてください。

1年男子

『ジブリアニメで哲学する—世界の見方が変わるヒント』 小川 仁志【著】

PHP文庫 PHP研究所

ジブリは老若男女に親しまれるアニメだが中には「よくわからない」と感じる作品も多いのではないだろうか。この本では、出てくるアイテム、建物、登場人物の行動などからそれらが一体何を表しているのかを繙いていく。作品ごとに書かれているので知っている作品の部分だけでもぜひ読んでみてほしい。

1年女子

『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』 新井 紀子【著】 東洋経済新報社

私はこの本を読んで、これからの未来はどうなるのだろうと不安になりました。この本はAIが東大に入れるかの実験を通して、読解力などの必要性を再認識させるような本でした。AIは進化していく一方、子どもたちの学力は低下してるため、AIに負けない力を付けることが大切だと気付かされました。

1年男子

『博士の愛した数式』 小川 洋子【著】 新潮社

数分しか記憶が持たない数学者と彼の家政婦、彼女の幼い息子たちの毎日を描く物語です。何度も繰り返される初対面の挨拶、それにもかかわらず博士との間に育まれていく愛情に心を打たれます。何か優しくて柔らかいものに触れたいときにおすすめの一冊です。

1年女子

『読書の価値』 森 博嗣【著】 NHK出版新書 NHK出版

今の時代、インターネットで検索をすればすぐに何でも出てきてしまうが、そんな時代における読書の価値について書かれた本。本を選ぶときに大切なこと、つまらない本の読み方などなんとなくのモヤモヤがすっきりとする。作者はすすめられた本は読むなどある一節で書いているが。

1年女子

『スグに使えるコード進行レシピーDAWユーザー必携のそのまま使えるパターン集』 斉藤 修【著】 リットーミュージック

この曲はどんなコード進行なんだろう。どうしたらこんな曲が作れるの。そもそもコードって何。クラシックからポップスまで音楽のベースとも言えるコード進行・音楽理論についてわかりやすく書かれた本です。世界中各地で区分しながら170ものパターンのコードが楽しく学べて曲作りに役立ちます。

1年男子